

令和8度 大田区立羽田小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年7月31日

・児童数248、学級数11、教職員数40名（校長、副校長、主幹教諭2、主任教諭5、教諭10、養護教諭1、事務1、特別支援教室専門員1、SC1、学校栄養士1、都時間講師4、区会計年度任用職員5、登校支援員1、エデュケーション・アシスタント1、児童誘導員1、ALT1、用務員3）

・今年度開校123周年を迎える地域に密着した学校である。コミュニティ・スクールとして、地元の祭りや伝統的な行事への参加をはじめ、干潟観察や町探検など、地域の方々と学校が一体となって児童の健全育成に取り組んでいる。また、羽田空港に最も近い学校であり、総合的な学習の時間を用いたバリアフリーの学習やキャリア教育、空港イベントへの参加等、空港と日常的に連携を図り、学校教育に生かしている。

・東京都人権尊重教育推進校としての歴史は長く、日常的な人権教育の推進はもちろん、食肉市場の方々と交流等を通して、都の人権課題について積極的に学習に取り組んでおり、その成果を隔年で発表している。

・校内研究のテーマは、「人権教育の推進」×「言語能力の向上」であり、研究主題は「関わり合い、認め合い、未来を拓くこどもの育成～自分も相手も大切にする言語能力を育成するための指導の工夫～」としている。言語能力の育成については、低学年においてデジタルMIMの学習に力を入れている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
									評価	人数	コメント
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未 来社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		以下の保護者アンケートから評価する。	4: 90%以上			A		
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			＜保護者アンケート＞ 「学校は、こどもに考えさせたり表現させたりする授業を行っている。」の項目に対する、肯定的な回答の割合。					3: 80%以上
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3: 80%以上							
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		2: 70%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④「おおたの未来づくり科」において地域の特色を生かした学習内容を工夫し、教科横断的な年間指導計画の作成を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		1: 70%未満						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
お世個 お界別 たと目 をつ標 担な2 うが る人 材国 を際 育都 成市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。			以下の児童アンケートから評価する。	4: 85%以上			A	
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	＜児童アンケート＞ 「羽田の地域学習は楽しい。」の項目に対する、肯定的な回答の割合。			3: 80%以上				
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3: 80%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		2: 70%以上						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								
		④羽田空港や地域の祭りなど、羽田の地域の特色を生かした取組を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		1: 70%未満						
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。								
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。								

	個人別の目標と基礎となる個性力と能力を育成し発揮する 3	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		以下の児童アンケートから評価する。 ＜児童アンケート＞ 「自分のことを大切に思える。」の項目に対する、肯定的な回答の割合。	4： 80%以上 3： 70%以上 2： 60%以上 1： 60%未満			A	B	C	D	
学個別校力・目標教師力を向上させます 4		校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 ②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。 4：「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1：「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。		以下の保護者アンケートから評価する。 ＜保護者向け学校公開アンケート＞ 「児童にとって、分かりやすい授業だった。」の項目に対する、肯定的な回答の割合。	4： 90%以上 3： 80%以上 2： 70%以上 1： 70%未満			A	B	C	D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。